

2022春のナースウェーブ

看護の力を示し、働き方をととのえ、実現しよう、納得の看護を！

5月14日、京都医労連も参加する「ひろがれ看護のこころ連絡会KYOTO」は、春のナースウェーブを岩手県医労連&長野県医労連と一緒にオンラインでつないで開催しました。集会では、神戸市看護大学の林千冬さんを招いて講演を視聴。講演では、「コロナ禍での労働環境の悪化は元々の労働環境の問題がベースにある。」「コロナ禍での看護サービス、看護職員への肯定的な見方・関心が増している。働き方も。」「労働環境の改善のチャンス。」「チャンスを活かすには、他職種との協働し看護実践すること。」「よい看護ができ



る労働条件を勝ちとるためには、よい看護を言葉で語り、しっかりアピールすること。個人で、仲間同士、労働組合あげて。」と。

また、宿泊療養施設で働いていた経験より、「派遣」という働き方は組織、チームの志向がなく、医療にそぐわないと指摘。さらに、看護師の行う「診療の補助」の意味を「看護師は診療をする人（医師）の補助をするのではなく、診療を受ける人（患者）の補助をする。治療・検査そのものへの関心ではなく治療・検査を受ける人に関心を向けること」と整理されました。最後に労働組合への期待をこめて、「労働組合という組織を使って、いい看護を発信しよう。」と呼びかけました。「労働組合の看護師役員は『素敵な看護師さん』、頑張っ」とエールもつけ加え、労働組合の役割は大きいと感じました。 https://youtu.be/AmY22Gq3t_U しばらくは林先生の講演が視聴できます。

講演後には、京都市立病院の辻本さん、府立医大付属病院の山崎さん、訪問看護ステーションわかばの田辺さん、舞鶴医療センターの廣瀬さんから「コロナの状況、二交代制勤務、子育て環境の改善、離職状況、処遇改善等」と、それぞれの職場で起こっている多岐にわたる状況の報告がありました。

集会後には、阪急西院駅前で「新しいち署名」の宣伝行動を行いました。自転車に乗っていた若い子がわざわざ降りて、「何しているんですか？」と、看護師増員の署名と聞いて、署名をしてくれるなど、多くの府民から署名の協力を頂きました。

